

教育課程

- ・本学の教育目的, 特徴
- ・講義形態(大学と高校との相違点)
- ・単位制
- ・科目の構成
- ・卒業・進級に必要な単位
- ・試験・成績
- ・学科所属
- ・研究指導

1

教育課程(カリキュラム)

○単位制、科目の構成について説明します。

単位制度

●授業期間(履修の手引き80頁～)

「一年間の授業を行なう期間は、定期試験等の期間を含めて35週にわたることを原則とする。」



定期試験の期間を5週間とし、残り30週を前期と後期に分ける。



授業期間は前期15週、後期15週

2

単位制

○本学の授業科目は、必ず、単位数と配当年次が決められています。

○学生は、その中から各自の学習計画に基づいて履修する科目を決めなければなりません。

○但し、履修は全く自由に決められるわけではありません。本学の定める履修規則に従って単位を修得しなければなりません。

○単位は、試験を受け、合格することにより与えられます。卒業するためには合計124単位が必要です。

○大学の授業は、学生が自主的に研究を行ない、学問の真理を深く、広く追求していくことが重要であり、大学での講義のほかに自分で考え、勉強する時間を持つことが原則となっています。

単位制度

●授業の形態

前期科目, 後期科目, 通年科目,
夏季集中科目,

●単位数

1単位科目, 2単位科目, 4単位科目

●授業時間 1コマ=90分授業

※ ……(単位計算上は120分)

3

○授業の形態は、「前期科目」、「後期科目」、「通年科目」、「夏季集中講義」があります。

○単位数は、授業科目ごとに「1単位科目」、「2単位科目」、「4単位科目」があります。

○講義1コマの時間は90分の授業ですが、単位の計算上は120分(2時間)として計算します。

単位制度

- 学則第23条第2項

「授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。」

4

○1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により計算します。

単位制度

(1)講義及び研究指導については、
15時間の授業をもって1単位とする。

(2)語学については、30時間の授業を
もって1単位とする。

(3)実験、実習および実技については、
30時間の授業をもって1単位とする。

5

- ①講義及び研究指導は、
15時間の授業をもって1単位とします(30時間は自学自習)。
- ②語学は
30時間の授業をもって1単位とします(15時間は自学自習)。
- ③実験、実習及び実技は、
30時間の授業をもって1単位とします(15時間は自学自習)。

○「前期」に開講する「講義」の場合、前期15週 週1回講義とすると、15回×2時間＝30時間の授業となり、したがって、単位数は2単位となります。

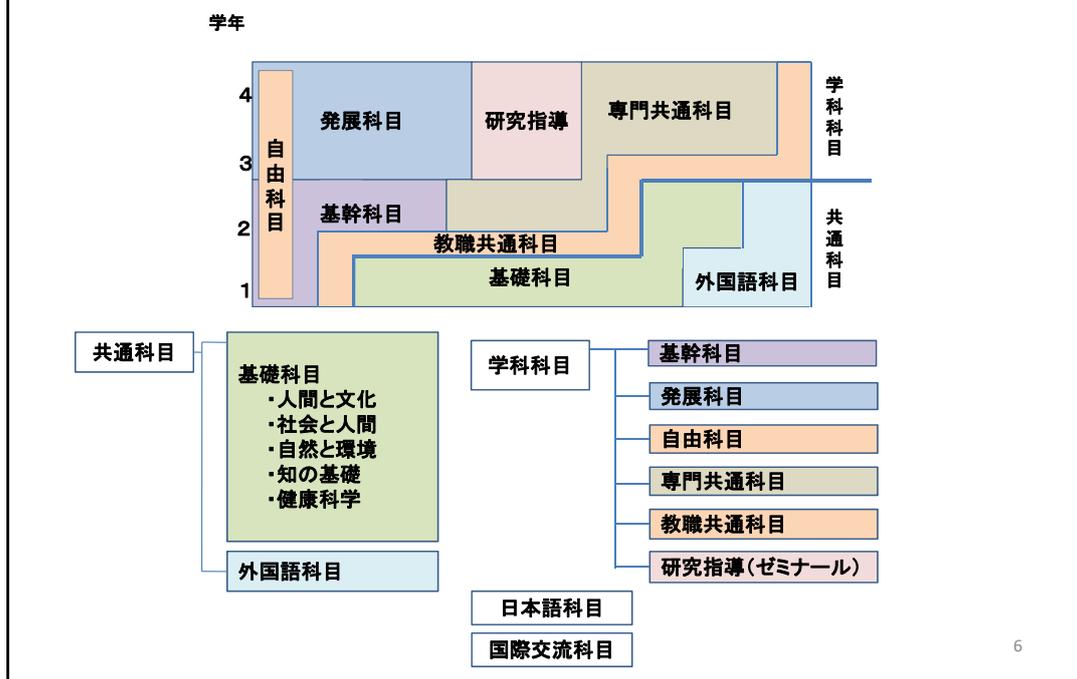
○「語学」や「実習・実技」の場合は、同じように30時間の授業でも1単位となります。

○本学では実技として「健康スポーツ」という科目がありますが、これも1単位です。実習は教職科目に「教育実習」という科目があります。実験に該当する科目はありません。

○同じ時間数の授業でも、このように単位数が違うということを理解してください。

○最も大事なことは、大学における授業の他に、自学自習の時間として30時間、或いは15時間をするのが前提であり、45時間をもって1単位となることで単位制度が成り立っていることです。

科目の構成(履修の手引き4～6頁)



ここからは、本学の科目構成について説明します。

○本学の授業科目は、大きく、共通科目、学科科目、国際交流科目、日本語科目という科目群に区分されます。

○共通科目は主として1, 2年次に学修し、2～4年次にかけて専門共通科目としてさらに専門的に学ぶことができるようになっています。

○これに対し、学科科目は、1, 2年次には基礎的な学修をし、3, 4年次により幅広く専門的に学ぶようにカリキュラムが作られています。

○このように、基礎的な科目から専門的な科目へと年次が進むにつれて徐々に学修を増やしていく方法を「くさび形カリキュラム」と呼んでいます。

★学科の導入的・情報提供的な科目、各学科の最も基礎的な科目(配当年次Ⅰ,Ⅰ・Ⅱの科目)
(履修の手引き23~29頁)

(経済学科)

「統計学」「経済学入門Ⅰ・Ⅱ」

(商学科)

「簿記原理」「経営学原理Ⅰ」「マーケティング入門」

(企業法学科)

「法学」「憲法・基礎Ⅰ」「民法・基礎Ⅰ」

(社会情報学科)

「社会情報入門Ⅰ・Ⅱ」「情報処理基礎」

7

これらの科目は、1年次で修得できる学科「基幹科目」です。

履修の手引き(Ⅱ.開講科目)の「学科科目」の表に基づいて、配当年次ⅠとⅠ・Ⅱの科目を確認してください。

・時間割をもとに履修計画を立てるうえで、これらの科目が何曜日の何講目に配置されているか確認することが重要です。

・あとで、時間割を見ていただき、どの時間帯に開講されているか確認しておいてください。

自分が所属したい学科の科目を1年次から履修することはもちろん大切ですが、4学科の基礎的な科目を満遍なく履修することも大切です。

本学を卒業したら、みなさんの学位は「学士(商学)」と記されます。商学を学んだのに、「簿記を全く知らない。」というのでは、あまり胸を張れないかも知れません。

みなさんは、4年間を通じて、幅広い学習をして卒業されることを期待します。